

院長コラム

聖書の一節から

From the Bible



*Rejoice with those who rejoice,
weep with those who weep.*

Romans 12:15 (New Revised Standard Version)

喜ぶ人と共に喜び、
泣く人と共に泣きなさい。

ローマの信徒への手紙 12章15節(新共同訳)

人から困りごとを相談されたり、悲しみを打ち明けられたり、という経験は誰にでもあることでしょう。そのような時、何か良いアドバイスや慰めの言葉をかけてあげることが出来たら、それは素晴らしいでしょうが、なかなか上手くいくものではありません。しかし、逆に自分が悲しんでいるときのことを考えてみると、本当に欲しいのは、慰めの言葉よりも、その悲しみを心の耳できいてくれる人の存在ではないでしょうか。

2019年12月4日に中村哲先生がアフガニスタンで凶弾に倒れてから5年になりました。中村先生は医師としてのみならず、灌漑設備の建設などを通して、実際にかの地の人々が生きていくために必要なものを提供し、その生活を支えて来られました。しかし、中村先生が人々から慕われたのは、共に喜び、共に泣くという、人が人と生きる時に最も大切な、人としての心をもっていたからだと思います。



西南学院 院長
いまい なおき
今井 尚生

School Organization Chart

1万人を超える学生、生徒、児童、園児が通う西南学院。

西南学院は、保育所・幼稚園から大学・大学院までを擁する全国でも数少ない総合学園です。

保育所から大学院まで一貫した理念に基づいて、保育、教育を実施しています。 ※データは2025年2月現在



西南学院大学

学生数：約8,300人

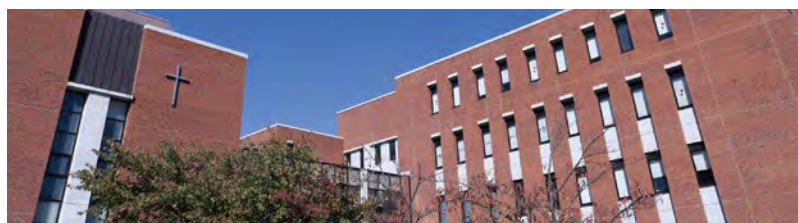
1949年開設。文系系・社会系系の総合大学です。開学当時からキリスト教に基づく人格教育を実践してきました。また、1971年に他大学に先駆けて国際交流制度を導入し、外国語教育をはじめとする国際教育の充実・向上を図っています。長年にわたって培われてきた伝統は、社会的に高く評価されており、同窓生たちは、九州の経済界をはじめ、教育、マスコミ、法曹、福祉など多方面で活躍しています。



西南学院小学校

児童数：約430人

2010年に開校した、西南学院の中で最も新しい学校です。心身ともに成長著しい小学校の課程において、キリスト教の精神に基づいた教育理念のもとに「隣人愛を育む」「知恵を育む」ことを目標として、平和な未来を創る子どもたちの育成に努めています。環境に配慮して設計された校舎内のアトリウムは常にやわらかな光が注ぎ、約2万8千冊の蔵書を誇る図書館や、毎朝のチャペルを中心に、日々教育の質的向上が図られています。



西南学院中学校・高等学校

【高等学校】生徒数：約1,250人

全学年、毎日1限目から7限目まで7時間の授業が行われています(月曜のみ8時間)。多様化する大学入試にも対応できるように、習熟度や進度の違いに配慮して授業を実施しています。知識の習得はもちろん、物事の善し悪しを判断する知恵と「自分にしてほしいことを隣人に行う」という積極的な生き方を身に付け、それをいかに社会で生かしていくかを学びます。



舞鶴幼稚園

園児数：約150人

福岡市内で最も歴史のあるキリスト教主義の幼稚園です。「心ゆたかたたくましいひかりのこ」を目指して、太陽と土と水と緑に触れながら感性豊かに育ち合う子どもたちを育成しています。一人ひとりの子どもの気持ちをくみ取ることができるよう、各クラスを複数担任で受け持っています。思いやりの心を培いながら、個性豊かに伸び伸びと生きていく力を育む保育を実践しています。



早緑子供の園(保育所)

園児数：約100人

0歳児から5歳児までの園児が長時間生活する場として、家庭的な雰囲気ときめ細かな育児を心がけています。「神様に愛され守られて成長していく一人ひとりの子どもを大切に」というキリスト教を礎とした保育理念を柱に、子どもたちが神様の深い愛に包まれている安心感を持ちながら、生きる力の基礎となる心の土台を育んでほしいと願い、保育を進めています。

Vol. 16

March 19, 2025

西南学院広報誌

あか れん が

赤煉瓦通信

～一粒の麦から～

2025年3月19日発行(年2回発行)
学校法人西南学院 総合企画部 広報・校友課
〒814-8511 福岡市早良区西新6-2-92
TEL.092-823-3248
koho@seinan-gu.ac.jp

【“一粒の麦”について】

「一粒の麦」は、イエス・キリストが言われた「一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒の麦のままである。だが、死ねば、多くの実を結ぶ」を語源としたものです。広い世界の中で、西南学院は「一粒の麦」であり、西南学院で学ぶ一人ひとりもまた「一粒の麦」と言えます。「一粒の麦」が持つ可能性を信じ、社会のために尽くしていくこそが創立者の思いであり、今もお大切に受け継がれています。

西南学院

<https://www.seinan-gakuin.jp>

西南学院大学・大学院

西南学院中学校・高等学校

西南学院小学校

舞鶴幼稚園

早緑子供の園(保育所)

西南学院広報誌

あか れん が

赤煉瓦通信 Vol. 16

March 19, 2025

～ 一粒の麦から ～

【特集】

西南学院とSDGs

西南学院

[特集]

西南学院とSDGs

西南学院は、地球の未来のためにSDGsについて考える機会を設け、自分たちでできることを行動に移しています。
今号の特集では、西南学院におけるSDGsへの取り組みの一部を紹介します。

Close up 1



授業をきっかけに
SDGsについて学び
解決策を考える力に

高校2年生の1年間をかけて、自分たちが興味のある社会課題の解決策を考える探究活動を行いました。この取り組みの目的は、生徒たちが社会課題に興味を持ち、主体的に解決する姿勢を身に付けることです。また、アイデアを表現する能力を養い、他者の発表から学びを得て視野を広げることも目標の一つでした。結果として、多



(写真左から)西南学院高校3年 御手洗都さん、リーダーの浅原心音さん、富岡陽莉さん、殿川はなさん、白壁志桜里さんを加えた5名のチームで挑戦。学校支給のタブレットで資料を作成し、何度もプレゼンの練習を重ねて受賞。苦勞の分、喜びもひとしおでした



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

「誰一人取り残さない」未来を目指して

SDGsとは、「誰一人取り残さない」という理念のもと、世界が抱える戦争や飢餓、教育の不平等などの問題をみんなで解決し、未永く暮らしやすい地球を保っていくという考えです。具体的には2015年に国際連合で採択され、「people(人間)」「prosperity(豊かさ)」「planet(地球)」「peace(平和)」「partnership(パートナーシップ)」の5つのPから始まるカテゴリに分け、2030年までの達成を目指して17の目標が掲げられています。



Close up 2

能登半島地震の被災地に赴き、 支援の輪がどんどん大きく



2024年1月に起きた能登半島地震に対し「自分にも何かできないだろうか」という学生からの声があり、「能登ヘルプ(能登地震キリスト災害支援会)」の支援のもとボランティアセンターが災害ボランティア活動を企画。9月2日～8日、有志の学生10名と引率職員2名が被災地域での支援活動に取り組みました。具体的には輪島市・珠洲市で被災された個人宅の家財や衣類などの片付けや、損壊したブロック塀の解体・撤去、津波で被災した側溝の土砂かさなどを行いました。被災地での手伝いだけでなく、福岡に戻った後も学生たちがそれぞれに感じたことを周囲に伝えたり、災害復興支援を目的とした学生ボランティア団体「いと」を復活させたりと活動の輪は広がっています。困っている誰かの助けになることが自身の学びにもつながる貴重な機会となりました。



チャペルアワーでの活動報告の様子



(上写真左から)西南学院大学4年 宮田杏さん、3年 井上葉陽さん(学生ボランティア団体「いと」代表)。「ボランティアの現場で出会えた能登の方々はもちろん、チームメンバーとの出会いもかけがえのないもの」と振り返る。(写真右下)能登で支給されたおそろいのTシャツも大切な宝物に

Message

教育格差や人手不足など

複数の社会課題の解決を目指して

高校2年生の頃にクラスメート5人で組んだチーム「地球を守り隊」で「SDGs QUEST みらい甲子園」に挑戦し、2023年度九州北部エリア大会で「アクションアイデア優秀賞」を受賞しました。未就学児から大学院生まで学ぶ西南学院に通ったことで、教育という分野に興味を持ち「教育格差」という課題を解決したいという思いからプロジェクトをスタート。「小学生と大学生をつなげる学びの絆」をテーマに、「L☆earnチケット」というツールを使い、学びたい小学生と教える大学生をマッチングすることで、貧困や人手不足などの課題解決を目指しました。高校の授業と両立しながらのプレゼン準備は大変でしたが、メンバーそれぞれが得意なことを生かしながらデザインや見せ方の工夫を重ねていくことは楽しかったです。今後みんな大学に進学しますが、今回のプロジェクトを経験できたことは良いきっかけになりました。これからもそれぞれの場所や視点からSDGsについて考え、引き続き解決策を実行に移していけたらと考えています。(地球を守り隊)

Message

目に見える活動を通じて

目に見えない心の支援まで

到着直後の印象は、地震から半年以上が経つのに、想像以上に復興が進んでいないということでした。私たちが滞在した数日で進められることはわずかでしたが、『県外から来てくれることが希望だ』と言っていただけ、小さくても一歩踏み出すことで誰かの力になれると思えました。また、現地で見聞きたことを福岡に戻って伝えることの大切さについても強く感じました。大学を卒業した後も自分にできることを見つけ、行動に移していきたいです。(宮田さん)

東日本大震災の時、小学生で何もできず悔しかったことを覚えています。今回は何か力になりたいと、被災地でのボランティアにすぐに志願しました。片付けなど目に見える活動を通じ、被災者の方々の心をサポートする目に見えない支援にもつながると思いました。ボランティアは勇気があるかもしれませんが、募金することや、支援について調べてみることからでもいいので、他人ごとと思わず、興味を持ってほしいと思います。ボランティア活動を通して良い仲間とも出会い、結果的に自分の成長にもつながります。(井上さん)



〔特集〕

西南学院とSDGs

キリスト教とSDGsの共通項や、各教育機関においてSDGsの意識を伝えるためにやっている幅広い活動について紹介します。

1 早緑
子供の園
(保育所)

感謝する心や環境を知り
未来を大切に作る意識の芽を育てて

子どもたちが身近な人や物、場とのつながりを通して自分が生きていく社会を知り、興味をもって自らも働きかけ、その世界を拡げてほしいと思います。それはさまざまなことに感謝しながら、神様に愛され守られている安心感が土台になると考えています。秋の感謝祭では、園児が家庭から果物を持ち寄りました。収穫の恵みに感謝するとともに、毎日の園生活に関わる用務や給食の職員に手紙を添えて贈りました。

また幼児クラスでは、毎月「からだ」「季節」「素材」など、テーマを決めて環境を知る活動を行っています。遊びのなかでテーマに触れる経験をしながら、子どもたちの興味や関心が自然や環境にも向かい、物を大切にする日々の生活が環境保護、さらに未来を支えていくという意識と展望を持ってほしいと願っています。



1 日頃当たり前にあるものに感謝の心を持ち、人や物を大切にできるように 2 3 環境を知る活動のテーマは「素材」「交通」「からだ」など暮らしに関わる全般

3 舞鶴
幼稚園

植物や動物を育てたり、廃材で遊び道具を作ったり、SDGsをより身近に

生き物のお世話を通じて
命の大切さを知る機会に



年長児は、ウサギやカメのお世話をしています。水替えや掃除を役割分担し、生き物の様子を観察し、気にかける進めています。お世話を通じて、命の大切さや責任を感じてほしいと願っています。

季節の野菜を育てて食べて
食のありがたさを体感



季節に合わせて野菜を栽培しています。水やりや害虫対策、かかし作りを楽しみ、収穫した野菜を調理して味わいます。野菜の成長を見ることが、食への関心も高まります。みんなで食べる喜びを感じ、苦手な野菜を食べられるようになる子どももいます。

身近な廃材で
遊び道具を作る



ペットボトルや空き箱などの廃材を使って遊び道具の製作を楽しんでいます。子どもたちは身近な素材でさまざまなものを作り、「買わなくても作れたい」と口に出します。廃材への興味を深め、リサイクルや再利用の意識を育てています。

4 小学校

水産業や食料問題について
話を聞き今できることに
少しずつ目を向けて

本校では、SDGsの理念を日常的に学びの中に取り入れています。例えば、5年生の社会科では水産業従事者の講話を聞く機会を設け、限りある水産資源を守り、次世代へつなぐ重要性を考えます。また、毎年10月16日の世界食料デーに合わせて食料問題や飢餓について学び、食の大切さを再認識。こうした取り組みを通じて、児童たちは昼食の際の残菜を減らす努力をするようになりました。

SDGsについては、一人ひとりの力をみんなで合わせることで大きな力になることを伝え、日常生活に生かし実践につなげています。これからも行動することの大切さを学ぶ機会を設け、社会課題への関心を育てていきたいと考えています。



出前授業の講師は、水産会社の株式会社アキラ・トータルプランニング。授業内容は、魚の内臓や骨を活用した商品開発秘話など

大学生が体験した海外ボランティアから
貧困や不平等について考える機会に

小学5年生を対象とし、本校の卒業生である森山さんにフィリピンでのボランティア活動の報告をしてもらいました。児童たちは体験談を直接聞き、貧困の問題や異文化理解について学ぶ機会を得ると同時に、森山さんが最も印象に残ったというフィリピンの子どもの笑顔に触れ、私たちと同じように現地で生活を営んでいる人々がいることや、生きる上で大切なことは何かを考えるきっかけとなりました。



小学校 × 大学

価値観の礎を築いてくれた母校に
考えるきっかけという種をまいて

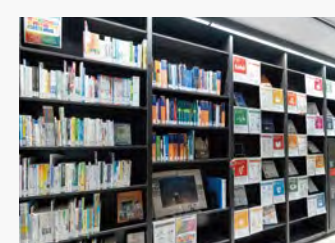
私自身、西南学院小学校の卒業生で、聖書の授業やチャペルでのお話が、理不尽な社会について考えるきっかけとなり、大学で世界の紛争問題や人権侵害について学ぶ軸となっています。今回、フィリピンでのボランティア活動で意識していた、小さなことに大きな愛を持って行動することの大切さについて話し、目の前のことからでも世界をより良くできるということを伝えました。子どもたちの心に小さな種をまくことができましたらうれしいなと思っています。



もりやま わかな
森山 和奏さん
西南学院小学校 2015年卒業
西南学院大学
法学部国際関係法学科 3年

SDGsコーナー

大学図書館の3階に設置しているSDGsコーナー。SDGsという言葉が「聞いたことがある」から「正しい知識がある」に変わるきっかけになればと、幅広く資料をそろえています。



弁当容器をボックスに入れるだけで災害支援につながる仕組み。送金先は毎年見直している

小さな活動でも
SDGsのゴールに
近づく一歩に

5 大学



西南学院大学のボランティアセンターでは、さまざまなボランティア活動を推進しています。例えば、「寄付本★プロジェクト」は「自宅で眠っている不要本を寄付して、奨学金へつなげよう!」という取り組みで、学内の回収ボックスに不要となった本を入れると、古本回収による買取金額が本学の奨学金になるというものです。また、「お弁当容器を回収ボックスに入れて、被災地に災害支援金を届けよう!」という取り組みは、学内の回収ボックスで回収された弁当容器による払戻金が、本学から被災地に送る災害支援金になります。そして、学生ボランティア団体「OPEN」によるコンタクトレンズの空ケースをリサイクルする活動も始まりました。ボランティア活動が入り口となり、SDGsの17のゴールに近づける機会がたくさんあるので関心を持ってみてください。

環境保護や「誰一人取り残さない」という理念は、
キリスト教の世界観とSDGsの共通項

キリスト教の世界観とSDGsには深いつながりがあります。聖書では、神が創造した全てのものを「極めて良い」と肯定し、最後の創造物である人間に、自然を保護して守る役割を与えています。この考えは、SDGsの環境保護の理念と一致しています。

また、キリスト教の「隣人愛」の「隣人」とは社会的に弱く厳しい立場にある人を指し、SDGsの「誰一人取り残さない」という基本理念に通じます。西南学院では、この精神を具体化するために、礼拝やチャペルの時間を設け、平和、環境、異文化などのテーマで社会問題について考える機会を提供しています。実践的な一例として、西南学院の大学生が毎年フィリピンで行われるボランティア・ワークキャンプに参

加し、海外の方々と異文化交流や、地域の自然環境を守る一助となるマングローブの植樹活動などを行っています。西南学院全体でも2023年には「西南学院ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン推進宣言」を発表し、SDGsの実現に向けて多様性を尊重する取り組みを進めています。

一人ひとりがSDGsを実践することで持続可能な未来を実現するばかりか、自分の価値観や世界観を見つめ直す機会も得られると思います。「多様な声」「声なき声」に耳を傾け、対話する勇気を持続けてほしいと願います。競争ではなく協力を、勝つことではなく守ることを意識し、明るく平和な社会の担い手となることを期待しています。

西南学院 宗教主事
りゅう ぶんちく
劉 雯竹



西南学院大学 商学部創設70周年



1 2024年11月19日、商学部70周年記念講演会を開催。卒業生である株式会社ゼンリン・高山壽司代表取締役社長(当時)が「『地図情報の未来』アナログ地図から電子地図へICT時代へ～」と題した講演を行った 3 2024年12月16日、在学生向け商学部創設70周年記念講演会を開催。複業家の中村龍太さん(コラボワークス代表、サイボウズ株式会社執行役員)を講師に迎えた

時代に応じた教育を展開し 近年は実践的な学びに注力

商学部は、2024年4月に創設70周年を迎えました。1954年に文商学部が文学部と商学部に分離して創設され、1962年には経済学科が開設、商学科と2学科となりました。1964年に経済学部が設置され、経済学科は商学部から独立。現在は、商学科と1966年に開設された経営学科の2学科です。2024年3月までの卒業生数は、商学科16,029名、経済学科218名、経営学科10,756名、計27,003名に上ります。時代に応じた教育を展開し、近年は企業との共同開発、商店街などでのまちづくり、公認会計士など会計専門職による講演など、実践的な学びを積極的に取り入れてきたことも強みの一つです。ベトナムやシンガポールで行う海外インターンシップ演習では、日本では得難い海外企業での実務体験ができ、卒業後のキャリア形成にも役立っています。さらに「実践!仕事塾」では、福岡を拠点とする身近な企業を招き、金融やインフラ事業を深く学ぶ機会を設け、ビジネスを多角的な視点から学んでいます。

今後の70周年事業では海外インターンシップ演習における渡航費支援や、2025年9月には商学部70周年記念事業の一環として日本経営学会第99回大会の開催を予定しています。



西南学院大学
商学部商学科
教授
おがわ てつひこ
小川 哲彦

卒業生

商学部で学んだことを生かし、 人や組織や未来を動かす人に

株式会社 筑邦銀行
代表取締役頭取
つるく ひろゆき
鶴久 博幸さん (西南学院大学商学部経営学科 1986年卒業)

経営に興味を持ち、西南学院大学商学部の門をたたきました。最も心に残っているのは、ゼミ(高駒ゼミ)の恩師であり、硬式野球部の顧問でもあった高田駒次郎先生です。先生は折に触れて、中学から続けていた野球に明け暮れる私に「勉強と同じくらい、人とのご縁や人格形成を大事に」と教えてくださいました。その考えは今の私の柱といっても過言ではありません。大学祭ではゼミの仲間と協力してうどん店(駒うどん)を出したり、ゼミの卒業旅行でハワイに行ったり、さまざまな経験させていただきました。

卒業後は筑邦銀行に入行。2024年4月1日付で頭取になり、西南学院大学出身の経営者の皆さんと交流する機会に恵まれています。金融、インフラ、マスメディアと業界も歩む道も違う者同士ではありますが、西南学院大学という同じ学び舎で見た景色を胸に、組織を率いる立場だから分かり合える悩みや、今後の福岡・九州を元気にしていこうという思いを語り合っています。

当行が大事にしているキーワードに「動かす人」という言葉があります。DXやAIなど、技術革新が目覚ましい時代ではありますが、人と関わる大切さは変わらないのではないかと思います。西南学院で学ぶ皆さんには今しかできない経験や勉強に全力を注いでください。そして共にこれからの福岡・九州を元気に「動かして」いきましょう。



九州六大学リーグ戦

高駒ゼミの仲間たちと、大学祭で駒うどん店



節目を迎えた西南学院の各学校の歴史を振り返り、

西南学院大学人間科学部 児童教育学科4年制移行50周年

児童教育学科は4年制へ移行して50年 時代とともに学びの重点も変化

児童教育学科は、前身の西南^{ほほ}保母学院、短期大学部児童教育科と合わせると80余年の伝統を有し、1974年に短期大学部から4年制へ移行、1985年には、まだ私学としては珍しかった小学校教員養成課程を設置しました。2000年代に入ると「人間科学」としての教育研究機能の拡充のため改組の母体となり、3学科・1研究科(2専攻)による学部・研究科組織への発展をもたらしました。保育・福祉・心理・教育の各分野に貢献する人間育成のため、時代に即応しながら組織とカリキュラムの改造を重ね、機能強化に努めてまいりました。近年も全学的なカリキュラム改革と歩調を合わせ資格・免許必修科目・単位数を精選することにより、学生の皆さんがデータサイエンスなど新たな分野の学びに踏み出すことを可能にしました。

ここ数年で学科を長く支えてくださった先輩諸先生方が数多く退職されました。2025年度にも新たに3名の教員が着任します。今後も西南保母学院創設時より受け継ぐ学科の建学の精神の涵養に努め、キリスト教的人間観や教育観を育ててまいります。巣立っていく学生たちが、乳幼児期・児童期の成長および発達を豊かな眼差しで見守り育てていくことができ、保育者・教育者としてその後も成長し続けられるよう、後押しできればと願っています。



西南学院大学
人間科学部児童教育学科
教授
わたなべ ひろし
渡邊 均



1 2024年8月27日、児童教育学科50周年記念の集い音楽会を開催。学科の前身、西南保母学院の建学の精神に係るヨハネ福音書第4章第14節「しかし、わたしが与える水はその人の内で泉となり、永遠の命に至る水がわき出る。」を体現する、ベルリン国立歌劇場メソソプラノの木下美穂さんとピアニストの東儀かな江さんによる演奏と講演が行われた。

2 児童教育学科の伝統ある大切な儀式「つるべ渡し」に用いられてきたつるべとそれに結ばれたリボン。学科の前身から受け継ぐ建学の精神(前掲:ヨハネ4.14)に対し、先輩から後輩へ受け継ぐ「真理の水脈に触れてその生命の水を汲むものとなるように」という学生信条のシンボル。



2

卒業生

学生の主体性を尊重する 恩師の温かな指導に感謝

社会福祉法人四季の会 どんぐりこ保育園 第2どんぐりこ夜間保育園 保育士・統括主任
(2025年4月1日より 第2どんぐりこ夜間保育園 園長就任予定)
えぐち ときこ
江口 世子さん (西南学院大学文学部(現 人間科学部)児童教育学科 2003年卒業)

幼い頃から保育の仕事に就きたいと思っていましたので、西南学院大学児童教育学科への入学は大きな喜びでした。大学では、得意な音楽を生かして、瀬川ゼミでフルートを専攻し、応援指導部吹奏楽団にも所属しました。演奏会や、野球・アメフトの応援などにも参加。それを企画・実行した経験は、現在の保育現場での行事運営に役立っています。また、ゼミではいつも温かく見守ってくださる瀬川啓子先生の指導に励まされました。

一方で、苦手だった美術の授業では、黒木重雄先生から「課題は一つじゃないから、自分に合ったものを選んでいいよ」とアドバイスをいただきました。この学生が「できること、やりたいこと」を認める姿勢は、私が保育士として園児に向き合う上でも大切にしています。

実は大学時代、保育現場に戸惑いを感じ、一般企業への就職も考えました。しかし、「どんぐりこ保育園」と出会い、子どもの主体性を大切にする保育に深く共感。10年間のクラス担任を経て主任保育士となり、現在は統括主任として8施設の保育の質向上に尽力しています。

保育士は、子どもとの関わりだけでなく、保護者対応や職員間の連携など、多岐にわたる能力が求められる総合職です。日々の課題は尽きませんが、子どもたちの成長に寄り添える喜びと、新たな保育への挑戦にやりがいを感じています。西南学院での学びや経験の全てが、保育の現場で生きています。後輩の皆さんには、未来を育む保育の世界で力を発揮してほしいと願っています。



1年次の湯平合宿(年に1回の小学校訪問演奏)

4年次瀬川ゼミ集合写真

その学びを得て成長した卒業生と共にをご紹介します。



卒業生を訪ねて

西南学院で学び、さまざまな場所や分野で個性を輝かせている卒業生の皆さんに、今のお仕事の話や在学中の思い出を語っていただきます。



自分の好きな道を極め、 伝統の技を未来へと

能楽師

さかくち たかのぶ
坂口 貴信さん

西南学院高等学校
1995年卒業

1976年生まれ。能楽師であり、東京藝術大学非常勤講師、国立劇場伝統芸能伝承者養成所講師を務める。重要無形文化財総合認定保持者で、第31回福岡県文化賞（創造部門）を受賞。



能楽師として日々舞台に立ちながら、東京藝術大学や国立劇場において、後進の育成、文化の普及にも力を注いでいます。現在は東京を拠点にしていますが、福岡にも定期的に帰り、父と共に筥崎宮にゆかりのある能『箱崎』の謡と仕舞の指導を行うなど、伝統を未来につなげる活動を続けていることが評価され、2024年には第31回福岡県文化賞（創造部門）を受賞しました。

2歳で初舞台を踏んで以来、ずっと能楽を愛し続けてきました。西南学院は自由で伸び伸びとした校風が印象に残っています。授業と能楽の練習に忙しい日々でしたが、部活は体操部に所属し、西南祭ではバンドを組んで演奏するなど、青春を謳歌しました。毎年恒例の能楽鑑賞会の際は舞台上立ち、クラスメートに学校での姿とは違った一面を見てもらえたことも良い思い出です。

能楽は伝統を守るだけではなく、時代の風を捉えた新しい挑戦にも積極的です。最近ではVR技術を駆使した公演や、海外で披露する機会も増えています。織田信長や徳川家康も教養として嗜んだといわれる能楽を、現代の人たちにも触れて学んで楽しんでいたけように、自分ができる

ことに励んでいく所存です。

自分の好きなことに出会い、それを深めることは、人生を豊かにしてくれます。私の同窓生もさまざまな業界でそれぞれに活躍していて、今も連絡を取り合っていますが、とても誇らしい仲間です。西南学院で学ぶ皆さんにも、今しかできない経験や一生の友、文化・芸術との出会いを大切にしながら、自分の道を見つけ、全力で挑戦してほしいと願っています。



卒業式の日に、担任の安部先生と

能楽に触れよう

能楽は日本の伝統的な舞台演劇。室町時代に観阿弥・世阿弥父子によって大成され、江戸中期にほぼ今の形に。面を被って主役を務める「シテ方」、シテの相手を務める「ワキ方」、能の囃子（音楽）を演奏する「囃子方（笛方・小鼓方・大鼓方・太鼓方）」、能の間に狂言を演じる「狂言方」がいます。各役方は、他の役方を兼ねることはなく、高度で専門的な技量を持つ完全な分業制となっています。

「平家物語」や「源氏物語」を題材にした演目もありますので、まだ能楽を見たことがない方も、まずは衣装・所作の美しさや、囃子の音色に耳を傾けに出かけてみてください。



能 道成寺 坂口貴信 三人の会 特別公演



今回のテーマは
「レジリエンス」

学びの現場から

西南学院の大学・各学校・園・保育所では、学生、生徒、児童、園児の成長のために教職員が一丸となり、より良い教育を目指して日々さまざまな取り組みを行っています。

挑戦とともに培われる 生きる力＝レジリエンス

—前田 レジリエンスとは、逆境を乗り越える力のことですね。園では子どもたちの活動や遊びを考える中で、いろいろなことを乗り越える力を培う経験ができることを意識しています。例えば、生活習慣を身につけることや、苦しいこと、初めてのことに挑戦するとき、最初はできずに悔しがったり悲しくなったりすることがあります。でも周囲の励ましや援助により少しずつできるようになっていきます。子どもたちは日々の体験を通し、諦めずに続けているとできるようになることを学びます。これこそが「生きる上で必要な力＝レジリエンス」であると考え、それを高めるための工夫を日々の保育に取り入れようとしています。

—松本 小学校にもたくさん個性が集まるので、さまざまな価値観や異なる考えを知る機会に恵まれます。こうした互いの違いを理解し、受け入れ合う経験も、将来立ち抜かる壁や逆境を乗り越えるためのレジリエンスにつながっていくと思います。

—前田 現代社会は、いつ何が変わっていくかわからない不安定な状況にあります。そんな中を生き抜いていくためには、どんな状況に置かれても、周囲と協力しながら自分の頭で考えて行動する力が必要だと思います。園の子どもたちを見ると、友達同士でぶつかり合うことも少なくありません。それを制止せず、言葉で意見を伝え合い、時には教師が間に入りながら、お互いが納得いくまで話し合えるようにしています。感情をコントロールしながら行動するのは人間ならではの持ち味で、それもこれからの時代に大切なのではないかなと思うのです。

—松本 小学校でも、話し合いは子どもたちが中心となって進めるように指導していますが、やはりぶつかり合うこともあります。そこが成長のチャンス。相手の行動や言葉の意味を理解し、共感し合う力を持つ経験も、多くの人と協力して課題を乗り越える上で必要なことといえるでしょう。



西南学院小学校 教諭
まつもと よしえ
松本 吉江

舞鶴幼稚園 教諭
まえだ じゅんこ
前田 順子

レジリエンスを高める上で キリストの教えを胸に

—前田 レジリエンスを向上させるために、子どもが壁にぶつかっていてもすぐに助けず、一緒に乗り越えていけるような声かけを意識しています。また、年長児になると苦しいことや自信がないことにも挑戦する状況をつくります。そうすることで成功体験を積み重ね、自信につながるかと考えています。小学校入学に向かう年長児にとって、1つでも自分に自信を持てることがあると、初めての学校生活の中でもその自信が味方になってくれて心強いですね。松本先生はどんなことを意識して指導されていますか。

—松本 私は、西南学院小学校の教育理念である「真理を探究し、平和を創り出す人間の育成」を基に意識していることが3つあります。1つ目は「キリスト教教育」。私利私欲ではなく、神の教えに基づいて行動を選択することは、客観的な判断につながり、ひいては困難な状況を乗り越える力につながると信じています。2つ目は、一人ひとりが愛されている存在であることや、学び続ける楽しさや大切さを伝えること。3つ目は平和を実現するために行動できる姿勢を育むことです。



朝のチャペルの時間に、ベシャワール会 川口さんのお話を聞く児童たち

—前田 素晴らしいお考えですね。児童たち自身に意識してほしいことはありますか。

—松本 平和を目指していく上では、想像力を働かせることが大切です。そのために、読書や体験などを通して知識を広げ、自分で考える力を深めてほしいと思います。また、最初からうまくいかないことを恐れず、何事にもチャレンジする姿勢を大切にしてほしいです。失敗も、成長の糧となる貴重な経験です。

—前田 失敗したり乗り越えられなかったりすることをダメなことだと思わず、まず受け止めてどんな行動をとるかが、レジリエンス獲得の第一歩になると確信しています。



竹馬の練習の第一歩は「壁乗り」。仲間同士で楽しくしながら竹馬を好きになることが逆境を越える土台に

SEINAN GAKUIN information

～西南学院からのお知らせ～

次期小学校長について

このたび、小学校長を選任いたしましたので、以下の通りお知らせいたします。

◎次期小学校長(再任)

黒木 佐幸

任期:2025年4月1日～2028年3月31日

経済学部創設60周年記念講演会 「経済ニュースって面白い!メディアの 最前線から」を開催しました

2025年1月10日(金)、経済学部は学部創設60周年を記念し、「経済ニュースって面白い!メディアの最前線から」と題した講演会を開催しました。講師にテレビ東京キャスターの片刈西さん(文学部外国語学科英語専攻卒)、司会にフリーアナウンサーの尾崎里紗さん(経済学部国際経済学科卒)をお迎え。400名を超える学生・教職員が参加しました。



2025年度前期 公開講座 「西南コミュニティカレッジ」 開講のご案内

西南学院大学では、あらゆる世代の「学びの場」として公開講座「西南コミュニティカレッジ」を実施しています。

2025年度前期は、5月から7月にかけて全10講座開講します。各講座についての詳細および申込方法については、大学ホームページでご確認ください。



過去に開催した講座の様子

西南学院大学 生涯学習 検索

【お問い合わせ】
総合企画部 社会連携課
TEL:092-823-3612
E-mail:sw-ext@seinan-gu.ac.jp



メールマガジン 「西南学院Letter」に ご登録ください!

メルマガ『西南学院Letter』は、西南学院のNEWSやイベント情報などをおよそ月に2回の頻度でお届けいたします。

ぜひご登録
ください



※携帯電話のメールアドレスをご登録の場合は、ドメイン名「seinan-gu.ac.jp」からのメールを受信可能な状態に設定をお願いいたします。

公式SNSをフォローして “今”を知ろう!

西南学院大学・各学校・園の公式SNSです。ぜひフォローをお願いいたします。皆さまからのいいね!をお待ちしています。

大学



中学校・高等学校



小学校



舞鶴幼稚園



広報誌送付先変更の際は、
専用フォームもしくは
社会連携課(TEL:092-823-3952)へ
ご連絡ください。



西南学院大学サポーターズ募金ご協力をお願い

2018年4月から開始した西南学院大学サポーターズ募金では、寄付者のご意向に沿った目的に使用するために使途をお選びいただけます。皆さまのお持持ちが本学のさまざまな活動の大きな支えになりますので、ご協力をお願いいたします。 ※この寄付金については、所得税法および法人税による減免税の措置を受けることができます。

選べる使途の種類 | 1 | 大学給付奨学金 | 2 | 教育・研究活動支援 | 3 | スポーツ・文化活動支援 | 4 | グローバル人材育成支援 | 5 | ボランティア活動支援

寄付者銘板のご紹介

ご寄付をいただいた個人様、団体様、法人様のご芳名を刻銘した銘板を、西南学院百年館(松緑館)の1階に設置し、末永く顕彰いたします。

銘板掲載対象

【個人】5万円以上
【団体】10万円以上
【法人】50万円以上
の寄付をいただいた方



西南学院大学サポーターズ募金 お問い合わせ先

※2025年4月以降のお問い合わせ先

西南学院 総合企画部 社会連携課
TEL:092-823-3952 FAX:092-823-3172
E-mail:koyu@seinan-gu.ac.jp

西南学院大学サポーターズ募金
ホームページはこちら▶▶▶



「スポーツ・文化活動支援」へのご寄付を物品購入等に活用させていただきました。
ご寄付いただきました方々に改めてお礼申し上げます。

大学給付奨学金



ご支援いただいた方々への感謝を忘れず残りの学生生活も充実させたいです。就職後はこの恩を返せるよう、社会人として頑張ります。

男子ハンドボール部



令和6年度西日本学生ハンドボール選手権大会(西日本インカレ)での活動費用として活用いたしました。

応援指導部吹奏楽団



コンクールに向けたレッスン費用として活用いたしました。

サッカー部



遠征の交通費およびユニフォーム代として活用いたしました。

SEINAN TOPICS

大学・各学校・園・保育所の近況

早緑子供の園(保育所)

豊かな心と体を育む 戸外遊び

歩行が安定していない0歳児も、気候の良い日には園庭で遊びます。砂場に座って砂や石、木の実などの自然に触れ、日差しを感じながら木々や葉が風で揺れるのを眺めます。つかまり立ちをして移動したり、トンネルをのぞき込んでしゃがんだり、ハイハイで築山に登ったりと、運動発達が促され、歩行の安定にもつながっていきます。戸外遊びを通して、子どもたちの世界がますます広がっています。



お外は楽しいな

舞鶴幼稚園

大学チャペルで パイプオルガンの演奏を鑑賞

12月16日、年長児が大学チャペルに音楽鑑賞に行きました。扉を開けると、大きなパイプオルガンが…!みんな、「こんな大きいんだ!」と驚いていました。「どこから音が鳴っているの?」「このパイプオルガンはどこで作られているの?」と興味津々!知っている歌を口ずさみながら、素敵な音色に夢中になっている子どもたちでした。



大きなパイプオルガンにびっくり!

西南学院小学校

イエス様の誕生をお祝いし 賛美あふれるクリスマスチャペル開催

12月17日、中高チャペルにてクリスマスチャペルが行われました。第一部は、かわいらしい1年生によるクリスマスページェント(降誕劇)、第二部では6年生による迫力のハレルヤコーラスが披露されました。全学年の児童、そして、たくさんの保護者の方々と、イエス様の誕生を祝い讃美する素晴らしい時間を過ごしました。



クリスマスチャペル(ページェント)の様子

西南学院中学校・高等学校

西南学院大学の学生と共に 心のバリアフリーを考える授業

「ともに生きる」というテーマのもと、中学生と西南学院大学人間科学部社会福祉学科の学生との連携講座を実施しました。福祉を専門的に学ぶ西南学院大学の学生が、心のバリアフリーについて考える授業を行いました。資料作り・説明など全て大学生が考えたものです。アイマスク体験や講義を通じ、深い学びにつながりました。



アイマスクを着用し、校内を歩く体験の様子

詳しくはこちら



「税に関する高校生の作文」 生徒5名が表彰!

「税に関する高校生の作文」とは、作文を書くことを通じて、次代を担う高校生が税に対する関心を深めるという趣旨で国税局が毎年実施しているものです。昨年から高校2年生全員がエントリーしています。今年度、本校2年生の1名が、最高賞の国税庁長官賞を受賞しました。さらに、4名が西福岡税務署長賞などを受賞しました。



受賞後の記念撮影の様子

2025年度より時代の変化に応じた 2つの新カリキュラムが始動

変化の激しい時代で活躍する人物を養成するため、2025年度から2つの新カリキュラムが始まります。「データサイエンス副専攻プログラム」は、データサイエンスの知識や技術を学び、デジタル社会に応じた能力を育成。「Global Liberal Arts」は留学生と共に、日本と世界の現状の両面を英語で学び、世界に通用する教養と創造性を育てます。



今の時代に応える2つのカリキュラム

詳しくはこちら



SPECIAL TOPIC

すずき ゆうい

鈴木結生さんが 第172回芥川龍之介賞を 受賞しました

1月15日(水)、優れた純文学を書いた新進作家に贈られる文学賞「芥川龍之介賞」の受賞者発表が行われ、本学大学院外国語学研究所に在学中の鈴木結生さん(外国語学部外国語学科 2024年卒業)が2作目となる著書『ゲーテはすべてを言った』(「小説トリッパー」2024年秋季号)で第172回芥川龍之介賞を受賞しました。鈴木さんからのコメントをご紹介します。

Comment

両親や彼女、編集者など多くの人たちが応援してくれていたの、今回受賞でき、うれしさとともに安心しました。いつも大学の図書館にこもって執筆をしていました。今作を執筆中、特に印象的だったのは、主人公家族が川の字で寝そべり、虹について語り合う場面で「この場面を書くために小説を書いているんだ」と感じ、自然と涙が流れた瞬間です。今の目標は、未完の作品を一つひとつ完成させることです。今年は小説を書くための知識や小説の構造、仕組みなどについて学びを深めつつ、2作品を世に出したいと考えています。私が今小説を書いている背景の一つに、幼い頃から教会で育ち、キリスト教が身近にあったことが関係しているように感じます。聖書は、さまざまな文学や文化、学問と深くつながっているので、ぜひ読んでほしいです。また、私の小説が、ゲーテやシェークスピアなどの文学にも興味を持つ一つのきっかけになればうれしいです。



早緑子供の園
保育士 中野 七海

上り坂や向かい風でも少しずつ進み 絶景やおいしいものを目指す旅へ

休日、おいしいものや美しい景色を目指して歩いたり、自転車に乗ったりして旅を楽しんでいます。これまでで最も遠かったのは原鶴温泉。自転車で5時間ほどかかりました。上り坂や向かい風でも少しずつ進めば乗り越えられることを経験し、自信ができました。心と体の健康のためにもずっと続けていきたいです。



大分の別府駅から1時間半歩いて「湯けむり展望台」へ。絶景を望んだ後に食べたのはおすし



原鶴温泉まで自転車。途中で峠のパン屋さんに寄るために向かい風の中進んだのもいい思い出